**【１】『スカウトハンドブック・ベーシック初版』について（修正案、補足等）**

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　R01.12.20

主な追加変更箇所●R02.02.21

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| ページ | 誤り又は疑義のある表記 | 修　正　案 | 補足・参考ほか |
| ●  P.26、31 | 国旗の掲揚・降納、弥栄 |  | 参考：検索キーワード  『基本動作・礼式の基準』  『ハットおよび中折れ帽を着用した場合の「いやさか」の動作』 |
| ●  P.42 | （９月から４月にローバー隊へ） |  | 日本連盟規程集 令和元年版 P.54によると、早ければ高校３年４月から可。  18歳に達した後、ローバー隊へ上進することができる（ベンチャー隊にとどまれるのは18歳に達する日以後の最初の3月31日までとする）。 |
| ●  P.71  危険を察知して安全を先取りする  場所・温度 | 温度・・・・・熱い、寒い  気候・・・・・暑い、寒い | 温度・・・・・熱い、冷たい  気候・・・・・暑い、寒い | 焚き火の直ぐ側は熱い、湧水の中は冷たい  暑熱⇔寒冷・・・気候の欄で「暑い、寒い」となっているので、  温度の方は「熱い、冷たい」とし、スカウトには出来るだけ様々な場面を想起してもらいたい。 |
| ●  P.76  水泳の注意点  水泳単位  ﾊﾞﾃﾞｨｼｽﾃﾑ | 水泳単位を３０分として、・・・  常にお互いを確認しながら行動して、バディコールごとにつないだ手を高く上げる。 |  | 水温や気温、体力など様々な要因を考慮し、状況により水泳時間を短めにし、休憩時間を長めに、バディコールの回数を増やすなど、設定に配慮する。  例1：水泳単位３０分＝水泳２０分(途中バディコール３回)＋休憩１０分  例2：水泳単位３０分＝水泳１５分(途中バディコール２回)＋休憩１５分  全体として、余力を残して、後の活動（行動）に支障がないようにする。  単純に人数確認だけではなく、体調の変化・異常の早期発見による  水難事故防止の目的が、バディシステムにはある。  常にお互い（目や唇、顔色など体調や身体の異常の有無）を確認しながら行動する。バディコールごとにつないだ手を高く上げ、改めてお互いをよく確認する。いつでも、体調の変化や身体の異常を認めたら、水から上がり、報告と適切な対処をする。  お互いにバディ（相棒）に責任を持つ。  水泳するバディ(2人)と監視するバディ(2人)も方法である。 |
| ●  P.76  水辺の安全  最下の行 | キャンプのときなど長時間にわたって行わない。 |  | 水泳での疲労→活動への影響、野営の疲労→水泳への影響  指導者のためのスカウトキャンプP.61　より  原則、キャンプ中は、水泳を行わないようになっている。  水浴させる場合も、泳がせてはならないとなっている。  教育として行う場合の例外の記載はある。  水辺の危険を調べてみよう。  参考：検索キーワード　『日赤サービス　水上安全法講習教本』 |

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| ページ | 誤り又は疑義のある表記 | 修　正　案 | 補足・参考ほか |
| ●  P.77  人が溺れているのを発見したら  ５番目 | マウス･ツー･マウス法 | マウス･ツー･マウス法(人工呼吸) | 溺者救助：状況に応じ、気道確保→人工呼吸→心肺蘇生法  ・胸骨圧迫・・・心臓マッサージ  　・人工呼吸・・・マウス・ツー・マウス（マウストゥマウス）  溺者救助時、人工呼吸が強調されているのは、溺水による呼吸原性心肺停止の場合、心原性心肺停止の場合より、血中酸素濃度が低下していることが考えられる。  詳しくは消防署や日本赤十字社などの公的なところでの講習で学ぶこと  参考：  日本赤十字社の救急法基礎講習教本平成29年5月6版P.36､37より  水上安全法講習教本令和元年8月11版2刷P.111より  ｽｶｳﾄﾗｲﾌﾞﾗﾘｰ野外活動における応急手当救急法改訂版2019P.72～74より  泳いで救助は難しい。背が立つ水中で気道確保･人工呼吸は難しい､泳ぎながらは更に難しい。自身の泳力や体力などに応じた溺者救助の方法を学ぼう。 |
| ●  P.77  君の水泳能力はどうだろうか？  ２番目 | 自分の能力をわきまえて、・・・  ・・・泳げる人は頭の上の深さで泳ぐ。 |  | 顔に水が容易にかかる深さ、足の着かない深さは、何かの拍子に恐怖心を覚え、パニックを起こしやすい。透明度の高い場所でも、足の方は見難い。一様に見えても流れが異なる層、水温が異なる層がある。波や流れなど、水の力は思いのほか強く、水中では思うように身体をコントロールできない。  子育て世代においても、昨今は、毎日のように川などで遊び・泳ぐという経験が無くなっている。単に泳力だけでなく、様々な要因を考慮して、都度、場所など、よく検討する必要がある。 |
| ●  P.95  人工呼吸 | ２秒かけて、２回吹き込む。 | 吹き込みは１回に約１秒かけて吹き込み、傷病者の息を約２～３秒で自然に出させる（およそ３～４秒で１ｾｯﾄ）、２ｾｯﾄ行う。 | ｽｶｳﾄﾗｲﾌﾞﾗﾘｰ野外活動における応急手当 救急法改訂2019P.29､31より  胸骨圧迫３０回の後、人工呼吸を２回。（３０：２）  記載が異なる理由は現在のところ不明である。 |
| ●  P.99  凍傷 | 生ぬるい湯(３２℃くらい)の中に４～５秒  ※上記は、昭和４６年頃の書籍で、現在、廃版の  『ボーイスカウトポケットブック』P.55からと思われる。 | やや温かめのお湯（４０～４２℃前後、熱くないお湯）で患部の末梢部まで十分に赤みが戻るまで温浴をする。 | ｽｶｳﾄﾗｲﾌﾞﾗﾘｰ野外活動における応急手当 救急法改訂版2019 P.7より  組織を損傷するのでマッサージはしない。状況に応じ、湯の温度が下がらないように差し湯する。日本赤十字社の救急法講習教本平成31年4月14版P.46では40℃程度のお湯に20分以上となっている。  記載が異なる理由は現在のところ不明である。 |
| ●  P.110  前腕の骨折 | 図 |  | ｽｶｳﾄﾗｲﾌﾞﾗﾘｰ野外活動における応急手当救急法 改訂版2019 P.138  と、日本赤十字社の救急法講習教本平成31年4月14版P.84(手首・前腕)、85(肘関節)とは異なっている。  記載が異なる理由は現在のところ不明である。  なお、負傷の状況に応じた手当てで傷みを和らげ、患部の安静等が大切。 |
| ●  P.113  止血帯装着  の手順  ④最下行 | （３０分ごとに１～２分ゆるめる） |  | 「スカウトライブラリー野外活動における応急手当  救急法 改訂版2019 2019年2月21日発行 (P.84…5～10分)」と  「ｽｶｳﾄﾊﾝﾄﾞﾌﾞｯｸ･ベーシック(P.113…1～2分)」とで、  止血帯をゆるめる時間について、記載が異なっている。  日本赤十字社の救急法講習教本平成31年4月14版P.61では、原則、止血帯は緩めない(目安として2時間程度までは緩めないとあるが、緩めるのは医療機関において)とある。  記載が異なる理由は現在のところ不明である。  参考：検索キーワード  『YouTube赤十字救急法基礎講習　止血帯による緊縛止血法　三角巾とターニケット』より　検索すると、救急法に変更があるようである。  ターニケット（器具）を使った止血帯止血法については、講習を行っているところもあるようである。命に関わる問題であるので、止血帯止血法は、  消防署や日本赤十字社などの公的なところでの講習で学ぶこと。  （2019年４月から一般向けの講習が変更されているようである。） |

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| ページ | 誤り又は疑義のある表記 | 修　正　案 | 補足・参考ほか |
| P.145  真北と磁北  は別の場所  にある  説明文と図 | 説明文の全文と図の関係  〈磁針方位〉  説明文  図『真北と磁北は別の場所にある』  図『地図上の真北と磁北の距離のずれ』 |  | 磁極(磁南極・磁北極)のほかに、局所的に地場の強い地域があり、磁界の向き（磁力線）に影響がある地域がある。  2019年現在、磁北極（磁極）は、日本から観て、真北より東にある。しかし、磁針(コンパス)は、東偏しないで西偏する。  磁極とは別に局所的な強い地場がある地域(シベリアのバイカル湖北部)があり、その影響が考えられる。  参考：  京都大学大学院  理学研究科附属地磁気世界資料解析センター  <http://wdc.kugi.kyoto-u.ac.jp/poles/polesexp-j.html#WhyW>　より |
| P.148  三角点の  説明箇所  7行目 | 標石は花崗岩（御影石）の四角柱で  ある。 | 標石は花崗岩(御影石)の四角柱などである。 | 花崗岩（御影石）ではない場合もある。  また、四角柱の標石ではない場合もある。  参考：  <https://ja.wikipedia.org/wiki/%E4%B8%89%E8%A7%92%E7%82%B9>　より  京都市青少年科学センター  <http://www.edu.city.kyoto.jp/science/online/story/18/index.html>　より  国土交通省  <http://www.mlit.go.jp/page/kanbo01_hy_001349.html>　より  国土地理院 基準点成果等閲覧サービスにて、  三角点や水準点について確認できる。  廃止された三角点で、地図に掲載はないが、現地に標石が残っている場合がある。  (R01.12.05国土地理院に確認済み)  <https://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%9C%B0%E5%BD%A2%E5%9B%B3>　より  国土地理院ホームページ  <https://www.gsi.go.jp/KIDS/map-sign-tizukigou-h06kijunten.htm#06-01>　より |

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| ページ | 誤り又は疑義のある表記 | 修　正　案 | 補足・参考ほか |
| ●  P.148  12行目  P.144  地図の種類 | 最後の四等三角点は１㎞程度の間隔がある。１:25,000の地形図では三角点の記号は三等以上のものに用いられ、  四等三角点は「標石がある標高点」としてあらわされている。 | 最後の四等三角点は２㎞程度の間隔がある。１:50,000の地形図では三角点の記号は三等以上のものに用いられ、  四等三角点は「標石がある標高点」としてあらわされている。  ※修正ではなく、ここの箇所の「１:25,000の地形図では三角点の記号は三等以上のものに用いられ、四等三角点は「標石がある標高点」としてあらわされている。」を削除でもよい。 | 参考：  １:25,000の地形図では、四等三角点も三角点の記号であらわされている。なお、今後、1：50,000の地形図は、更新(在庫限りで、官報販売所や書店での販売)は予定されていないようである。1：10,000の地形図も同様に更新の予定はない。  (R01.12.05国土地理院に確認済み)  <https://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%9C%B0%E5%BD%A2%E5%9B%B3> より  ※概ね、四等三角点は、三等以上の三角点を含め、２㎞程度の間隔であるが、一般的には左記の通り紹介されている。  他の三角点の間隔は、概ね、一等（本点約４５㎞間隔、補点約２５ｋｍ間隔）、二等（一等含め、約８㎞間隔）、三等（二等以上含め、約４㎞間隔）。  標準的な三角点の標石は、一等上辺18㎝、二等・三等上辺15㎝、四等上辺12㎝。  （なお、異なる場合がある） |
| ●  P.149  標高点  P.147  記号  表中 右上 | 〈標高点〉 | 〈標高点〉1：50,000の地形図の説明  ※追記ではなく、ここの箇所の「〈標高点〉とその説明文」の全部を削除でもよい。 | 追記  参考：  国土地理院ホームページ  <https://www.gsi.go.jp/KIDS/map-sign-tizukigou-h14kigou-itiran.htm>　より  国土地理院ホームページ内　国地達第１５号　PDF  <https://www.gsi.go.jp/common/000218186.pdf>　より  平成25 年2万5千分1地形図図式の標高点は、  次の通りである。  現地測量は小数点第１位まで表記(特別標高点)  写真測量は整数で表記(標高点)  なお、平成25 年2万5千分1地形図図式における  特別標高点・標高点のいずれも現地に標石はない｡  (R01.12.05国土地理院に確認済み) |
| P.152  磁北線  10行目 | 「磁気偏角が西偏6°50′(6度50分)」ならば、「分」以下は切り捨てて・・・ |  | １°(1度)は60′(60分)、1′(1分)は60″(60秒)である。50′(50分)を切り捨てると、１°(1度)近く切り捨てることになる。スカウトが使用するシルバコンパスは、目盛りが２°(２度)ごとになっており、シルバコンパスを利用して磁北線を引くことが必ずしもよいとは限らない。  ボーイ年代なら、分度器を使って磁北線を引くのもよい。  ベンチャー年代なら、タンジェントを使って、より正確に磁北線を引くのもよい。  （できるだけ近似値で処理した方が良い）  参考：  <https://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%88%86_(%E8%A7%92%E5%BA%A6)>　より |

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| ページ | 誤り又は疑義のある表記 | 修　正　案 | 補足・参考ほか |
| P.160  太陽を使った  方位発見  図の右※印 | ※春分・秋分の南中高度は  ９０°（その地点の緯度）  になる。 | ※北半球において、  春分・秋分の南中高度は  ９０°－（その地点の緯度）  になる。 | 観測者のいる緯度(その地点の緯度)をＡ°とする。  公転面に対する地軸の傾きをB°＝約23.4°とする。  北半球において、太陽の南中高度は  夏　　至　の南中高度＝９０°－Ａ°＋Ｂ°  春分・秋分の南中高度＝９０°－Ａ°  冬　　至　の南中高度＝９０°－Ａ°－Ｂ°  北 極 星 の 高度＝概ねその地点の緯度  参考：  大学共同利用機関法人 自然科学研究機構  国立天文台ホームページ  <https://www.nao.ac.jp/faq/a0109.html>　より  <https://www.nao.ac.jp/faq/a1007.html>　より  <https://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%9C%B0%E8%BB%B8>　より  [https://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%8C%97%E6%A5%B5%E6%98%9](https://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%8C%97%E6%A5%B5%E6%98%259) より |
| ●  P.163  ｽｶｳﾄｿﾝｸﾞ  星方位　６番 | ヴェーガ（織姫）を    はずれてピカッと　北極星 | ヴェーガ（織姫）を  結んだ線のまん中を  はずれてピカッと　北極星 | 参考：  ボーイスカウト歌集 P.70、71  星方位（ほしほうい）　中村知 作詞　アメリカスカウト曲 |
| ●  P.164  月の形で方位  (東西)を知る | 上弦の月  東の空　　　　　　　　　　　西の空  午後０時　　　～略～　 　 　１２時  満月  　　 　南の空  １０時　　午後０時　　２時  下弦の月  東の空　　　　　　　　　　　西の空  午後０時　 　～略～ | 上弦の月  東の空　　　　　　　　 西の空  （午後　０時）　　　　　 （午後１２時）  午前１２時 ～略～ 午前 ０時  満月  　　 　南の空  １０時　　午前　０時　　２時  （午後１２時）  下弦の月  東の空　　　　　　　　 西の空  午前　０時 　～略～ 午前１２時  （午後１２時）　　　　　 （午後　０時） | 夜の１２時（正子）は、午前　０時 または午後１２時  昼の１２時（正午）は、午前１２時(または午後 ０時)  参考：  公益社団法人 日本広報協会  <https://www.koho.or.jp/useful/qa/hyouki/hyouki07.html>　より  大学共同利用機関法人 自然科学研究機構  国立天文台ホームページ  <https://www.nao.ac.jp/faq/a0201.html> より  <https://www.nao.ac.jp/faq/a0401.html> より |
| ●  P.165  北の図 | 少し沈むように・・・ | 地平線近くの星が水平に  少し沈むように・・・ | ｽｶｳﾄﾊﾝﾄﾞﾌﾞｯｸ・ﾍﾞｰｼｯｸＰ165図　より  東西南北のいずれも遠く地平線（水平線）近くの星を観察 |

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| ページ | 誤り又は疑義のある表記 | 修　正　案 | 補足・参考ほか |
| ●  P.154  現在位置の確認  P.169  ﾊﾞｯｸﾍﾞｱﾘﾝｸﾞ  (来た道を戻る  方法)  P.169  ２段落目  ●  ３段落目 | 現在地の確認〈１点確認法〉  ●バックベアリング(来た道を戻る方法)  　引き返す地点が②であったとすると、ここの地点の方位角は６５°である。この方位角６５°を測るときに・・・  　そして下段の歩数、１８５歩を戻るのである。そして、再度　１４°をＮとＳを逆さにして測り、下段の２０５歩を戻るのである。 | 現在地の確認〈１点確認法〉  バックベアリングと言うこともある。  バックベアリングは二種類ある。  P.169来た道を戻る方法 参照  ●バックベアリング(来た道を戻る方法)  バックベアリングは二種類ある。  P.154現在地の確認 参照  　引き返す地点が②であったとすると、ここの地点の方位角は１４°である。この方位角１４°を測るときに・・・  　そして下段の歩数、１８５歩を戻るのである。そして、再度３１５°をＮとＳを逆さにして測り、下段の２０５歩を戻るのである。  ※ＮとＳを逆さにせず、次の通りするのも方法である。  元の方位角が１８０°未満の場合は、  元の方位角に１８０°足す。  戻る方位角＝１４°＋１８０°＝１９４°  元の方位角が１８０°以上の場合は、  元の方位角から１８０°引く。  戻る方位角＝３１５°－１８０°＝１３５°  なお、戻るべき方位角を、次へ進む前に、その都度、計算して割り出しておけば、慌てることなく、シルバコンパスを通常通りの使い方ができる。  歩数の横に、戻る方位角を  １８５歩 (１９４°)　２０５歩(１３５°)  と記載するなど工夫しておくと間違い難い。 | 参考：  検索キーワード  『 目標物 バックベアリング 現在地の確認方法 』 より  ２点確認法である「クロスベアリング」に対して、１点確認法のことを「バックベアリング」ということもある。「バックベアリング」という言葉には、二つの意味があるということである。  参考：  スカウトライブラリー計測P.17　より  道の状況にもよる。また、同じ道でも、登り・下りで、通常、歩幅は変わる。よって、登りの歩数と同じ歩数で、下って元の場所に戻ることにはならない。  その他、歩幅は人によって異なるし、速さによっても異なる。  これらに気を付けよう。    非常に高度なスキルなので、気を付けていても間違いやすい。  さらに道に迷わないためにも、落ち着いて、考えよう。 |

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| ページ | 誤り又は疑義のある表記 | 修　正　案 | 補足・参考ほか |
| ●  P.170  略地図作成  中央右の図 |  |  | 説明及び左下の図に合わせた。 |

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| ページ | 誤り又は疑義のある表記 | 修　正　案 | 補足・参考ほか |
| ●  P.220  引きとけ結び | 左上のイラスト |  | 左上のイラストは、結び終えた後、裏返している。 |
| ●  P.221  てぐす結び  図 | 図②の右半分 と 図③の全部   |  |  |  | | --- | --- | --- | | ① | ② | ③ | | 図②の右半分 と 図③の全部  を削除   |  |  |  |  | | --- | --- | --- | --- | | ① | ② |  | ③ | | 参考：  『ｽｶｳﾄﾗｲﾌﾞﾗﾘｰロープむすび　関忠志　』P.14 より  <https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%86%E3%82%B0%E3%82%B9%E7%B5%90%E3%81%B3>　より  左右入れ替えても同じになるように結ぶ。 |
| ●  P.223  よろい結び  説明文 | 太いロープで物を引っ張るときに輪を作り、その輪に体を入れて引っ張るときにも使う。 | **削除して、下記の注意喚起**  ※この結びは、ロープの材質や結びの形がくずれることにより、輪が縮まり、締まってしまうことがある。体を入れるのは危険である。また、腕を通すのでもない。  輪が縮まってしまったときのことを考えよう。『ｽｶｳﾄﾗｲﾌﾞﾗﾘｰロープむすび』では、肩を入れると表現されている。 | 羽(耳)の部分を、結びの全体を締めるとき、向かい合わせるように、蝶が羽を閉じるようにして、締める。 |

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| ページ | 誤り又は疑義のある表記 | 修　正　案 | 補足・参考ほか |
| ●  P.227  角しばり  説明②  ３行目  説明③  １行目 | 横の柱を巻くときは内側を・・・  柱と柱の間を２回巻き、・・・ | 横の柱を巻くときは外側を  縦の柱を巻くときは内側を・・・  柱と柱の間を３回ほど巻き、・・・ | 図にあわせた説明に直した。  参考：  巻く回数や割の回数は目安ではある。  『ｽｶｳﾄﾗｲﾌﾞﾗﾘｰロープむすび　関忠志　』P.40　より |
| ●  P.228  はさみしばり  ●  P.229  ８の字しばり | 丸太の間に「割り」・・・  丸太の２か所に割り・・・ | 丸太の間に２回割り・・・  丸太の２か所に各２回ほど割り・・・ | 参考：  巻く回数や割の回数は目安ではある。  「角しばり・筋かいしばり」と「はさみしばり・８の字しばり」の割の回数の違いは、目的の違いからと思われる。  『ｽｶｳﾄﾗｲﾌﾞﾗﾘｰロープむすび　関忠志　』P.42　より  ｽｶｳﾄﾗｲﾌﾞﾗﾘｰロープむすび はさみしばり ページの構成から８の字しばりも同様と思われるが・・・。  『ひもとロープ結び 小暮幹雄 監修』P.194、195 より  三脚に開く際のロープへの力の掛かり方によるのか、  ８の字しばりの一方の割（下記の絵で言えば、緑と青の間）は２回、もう一方（下記の絵で言えば、茶と青の間）の割は３回と紹介されているものもあるが・・・。  自分で結んで具合をみて、巻く回数など変えてみて、試してみよう。 |

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| ページ | 誤り又は疑義のある表記 | 修　正　案 | 補足・参考ほか |
| P.300  針葉樹  削除 | 針葉樹（常緑樹）  葉が針のように細長いマツやスギなどで年中を通して緑の葉をつけているので常緑樹ともいう。 | 針葉樹（常緑樹）  葉が針のように細長いマツやスギなどで年中を通して緑の葉をつけているので常緑樹ともいう。 | 常緑樹か落葉樹かという分類と、針葉樹か広葉樹かという分類は区別する。  常緑針葉樹、落葉針葉樹、常緑広葉樹、落葉広葉樹  参考：  森林・林業学習館ホームページ  <https://www.shinrin-ringyou.com/topics/jyouryoku.php>　より  <https://ja.wikipedia.org/wiki/%E9%87%9D%E8%91%89%E6%A8%B9>　より  <https://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%BA%83%E8%91%89%E6%A8%B9>　より  日本において、針葉樹の多くが常緑樹である。  落葉樹である針葉樹もある。  （例：マツ科カラマツ属カラマツ　落葉樹  ・・・三坂野営場に行って観てみよう。）  <https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%AB%E3%83%A9%E3%83%9E%E3%83%84>　より  スギ･ヒノキ･アスナロ･アカマツ･クロマツは、  常緑樹である。  イチョウの樹は面白いから、調べてみよう。 |
| P.300  ヒノキ | 同じヒノキ属にアスナロ  がある。 | 同じヒノキ科にアスナロ属アスナロがある。 | スギは、ヒノキ科スギ亜科スギ属である。  アスナロは、ヒノキ科ヒノキ亜科アスナロ属である。  ヒノキは、ヒノキ科ヒノキ亜科ヒノキ属である。  参考：  <https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%92%E3%83%8E%E3%82%AD>　より  <https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%A2%E3%82%B9%E3%83%8A%E3%83%AD>　より |

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| ページ | 誤り又は疑義のある表記 | 修　正　案 | 補足・参考ほか |
| P.301  広葉樹  削除 | 広葉樹（落葉樹）  葉が広く平たいサクラやケヤキ、ブナなどで秋から冬にかけて葉を落とすので落葉樹ともいう。 | 広葉樹（落葉樹）  葉が広く平たいサクラやケヤキ、ブナなどで秋から冬にかけて葉を落とすので落葉樹ともいう。 | 常緑樹か落葉樹かという分類と、針葉樹か広葉樹かという分類は区別する。  常緑針葉樹、落葉針葉樹、常緑広葉樹、落葉広葉樹  参考：  <https://ja.wikipedia.org/wiki/%E9%87%9D%E8%91%89%E6%A8%B9>　より  <https://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%BA%83%E8%91%89%E6%A8%B9>　より  <https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%96%E3%83%8A%E7%A7%91>　より  広葉樹にも、常緑樹と落葉樹があり、日本にはどちらも多くある。  ブ　ナ科のなかでも常緑樹と落葉樹がある。  コナラ属のなかでも常緑樹と落葉樹がある。  （例：コナラ属コナラ亜属ウバメガシ節ウバメガシ　常緑樹)  （例：コナラ属アカガシ亜属のアカガシやイチイガシなど　常緑樹）  サクラ・ケヤキ・ブナ・コナラ・クヌギは、  落葉樹である。 |
| ●  P.301  シイ属  最下の写真  シイ | 写真と樹種説明文の不一致  最下の写真・・・マテバシイ  **ドングリの写真**  樹種説明文・・・シイ  　　　　　　　　ブナ科クリ亜科  シイ属 | 最下のマテバシイの写真を削除  **ドングリの写真**  **↑**クリ亜科マテバシイ属  マテバシイ（常緑樹）  樹種説明文・・・シイ  　　　　　　　　ブナ科クリ亜科  シイ属  スダジイ（常緑樹）  ツブラジイ（常緑樹） | 最下の写真はマテバシイ。  ブナ科クリ亜科マテバシイ属には、  マテバシイとシリブカガシがある。  マテバシイとシリブカガシは、常緑樹である。  ブナ科クリ亜科シイ属には、  スダジイとツブラジイがある。  スダジイとツブラジイは、常緑樹である。  ブナ科クリ亜科クリ属には、  クリがある。  クリは、落葉樹である。  参考：  <https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%9E%E3%83%86%E3%83%90%E3%82%B7%E3%82%A4>　より  <https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%B9%E3%83%80%E3%82%B8%E3%82%A4>　より  <https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%84%E3%83%96%E3%83%A9%E3%82%B8%E3%82%A4>　より |

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| ページ | 誤り又は疑義のある表記 | 修　正　案 | 補足・参考ほか |
| ●  P.316  最下 | ２㎞≒１５分 | ２㎞：１５分＝８㎞：１時間  　　　　　　　　　※１時間＝６０分    スカウトペースで２ｋｍ進むのにかかる時間≒１５分 | 学習面で、様々な発展段階にあるスカウトがいる。  単位や記号の使い方、文章から数式への置き換えに、配慮を要する。 |
| ●  P.320  ②複仰角法 | 川  （Ｌ）  図の（Ｌ）の位置 | 川  (Ｈ)  ？ | 参考：  ｽｶｳﾄﾊﾝﾄﾞﾌﾞｯｸ・ベーシックより  ①　P.321 3.三角法 で距離を測り、  ②　P.319 6.腕長利用法 で高さを測る。  ①と②を組み合わせて、到達できない２点間  （高さ）を測ることもできる。  角度はP.314の指で測れば、簡易計測器を使わずにP.320の1～3の測量もできる。  シルバコンパスを使った縮図法も考えられる。  自分たちでも色々と考えて工夫してみよう。 |
| Ｐ.320  ３．三角関数法  右表内 | ２１°　０．３６３９ | ２１°　０．３８３９ | 小数点第５位を四捨五入  参考：  KEISAN生活や実務に役立つ計算サイト  より  検索キーワード  『高精度計算サイト  角度と底辺から斜辺と高さを計算』 |

B804074SLPS0116SIJAWATSB21MEF

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| ページ | 誤り又は疑義のある表記 | 修　正　案 | 補足・参考ほか |
| ●  P.322  用途および  注意事項  第二原画 | 数字の「２」として使います。  ～略～ | 数字の「２」として使います。  ～略～  長音の形象に使います。 | 参考：  手旗購入時の付属資料　より  追記 |
| ●  P.323  旗の動かし方  第五原画  ２行目 | ・・・同時に両ひじを曲げて・・・ | ・・・同時に両手首を曲げて・・・ | 参考：  旗と船舶信号（出版 成山堂）六訂四版  三谷末治　古藤泰美　共著　より  日本ボーイスカウト岡山県連盟ホームページ内  『　班長の手旗信号指導法　』  <https://scout-ok.jp/archiv/index.html>　より |
| P.323  手旗  原画形象表  第１４原画  用途および  注意事項 | 読点、半濁点・・・ | 句点、半濁点・・・ | 参考：  日本ボーイスカウト岡山県連盟ホームページ内  『　班長の手旗信号指導法　』  <https://scout-ok.jp/archiv/index.html>　より  句点は、俳句の間のようなもので読まない形象  読点形象は別にあり、下記の正面からの図参照  読点形象は、読む形象 |

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| ページ | 誤り又は疑義のある表記 | 修　正　案 | 補足・参考ほか |
| ●  P.323  第７原画  追記 | 用途及び注意事項 不足 | 新章形象の場合、やや長くあげる。  （第７原画より長く） | 参考：  日本ボーイスカウト岡山県連盟ホームページ内  『　班長の手旗信号指導法　』  <https://scout-ok.jp/archiv/index.html>　 より |
| ●  P.323  第１２原画  追記 | 用途及び注意事項 不足 | 終信形象の場合、やや長くあげる。  ただし、送信者の全部取消の場合は、  受信者の同形象を確認まで。 | 参考：  日本ボーイスカウト岡山県連盟ホームページ内  　　 『　班長の手旗信号指導法　』　より |
| ●  P.323  第１３原画  追記 | 用途及び注意事項 不足 | 数字形象の場合、濁点の３倍長くあげる。  第３法（数字原画法）で送信する場合は、  ひとまとまりの数字の前後にあげる。 | 参考：  日本ボーイスカウト岡山県連盟ホームページ内  　　 『　班長の手旗信号指導法　』　より |
| ●  P.323  第１４原画  追記 | 用途及び注意事項 不足 | 句点形象の場合、半濁点の３倍長くあげる。 | 参考：  日本ボーイスカウト岡山県連盟ホームページ内  　　 『　班長の手旗信号指導法　』　より |
| P.324  文字形象表  ヰの位置 | ヤ　ユヱヨ  ワヰ　　ヲ | ヤヰユヱヨ  ワ　　　ヲ | 参考：  日本ボーイスカウト岡山県連盟ホームページ内  　　 『　班長の手旗信号指導法　』　より |
| P.324  文字形象表 | 長音未掲載 | 長音は、第２原画であらわす。 | 参考：  日本ボーイスカウト岡山県連盟ホームページ内  　　 『　班長の手旗信号指導法　』　より |
| ●  P.325  手旗の表記 | 表記  「符」 | P.325の「符」の表記を全て削除 | 手旗は形を表しているので、「符」より「形象」が表記としては望ましい。例：応信形象　解信形象　消信形象  なお、P.325に余白がないことから、修正にあたって、P.325の「符」を全て削除が適当と思われる。 |

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| ページ | 誤り又は疑義のある表記 | 修　正　案 | 補足・参考ほか |
| ●  P.325  手旗  交信の一般基本  一行目 | 左から一番目の受信者  受信者「往信符」 | 受信者「応信」 | 参考：  日本ボーイスカウト岡山県連盟ホームページ内  『　班長の手旗信号指導法　』  <https://scout-ok.jp/archiv/index.html>　より  参考：  旗と船舶信号（出版 成山堂）六訂四版  三谷末治　古藤泰美　共著　より |
| ●  二行目 | 送信者（誤り）「一部消信」▷  　　　　　受信者「一部消信」▷  送信者「本文」 | 送信者（誤り）「消信」▷  受信者「消信」▷  送信者「本文」 | 本式では、【　送信者（誤り）「消信」「本文」　】で、二行目の受信者「消信」はありません。  ボーイスカウトの手旗独自と思われ、なくてもよいが、受信者「消信」があった方がスカウト間では分かりやすいと思われる。 |
| ●  三行目 | 受信者(一部不明)「一部消信」  -送信者「一部消信」「本文」 | 受信者(一部不明)「消信」「…ｶﾗｻﾗ」  ▷送信者「解信」「本文」 | 本式では左記の通りであるが、スカウト間では簡便に次の通りでも良いかとは思われる。  受信者(一部不明)「消信」  ▷送信者「消信」「本文」 |
| ●  四行目 | 右から一番目の受信者  受信者「送信符」「終信符」 | 受信者「消信」「終信」 | 参考：  手旗付属資料 より |
| ●  P.325  手旗信号が使えるようになるには  下から２行目 | スは漢字の寸になる。 | チも逆２原画になる。  スは漢字の寸になる。ネは漢字の子になる。 | 参考：  手旗付属資料 より  エは逆２原画をあげるのは、ホと間違えないようにするため  チは逆２原画をあげるのは、第２動による形象を明確にするため |

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| ページ | 誤り又は疑義のある表記 | 修　正　案 | 補足・参考ほか |
| ●  P.325  筆記の際の記号 |  |  |  |
| Ｐ.326  モールス信号  もれ | 濁点　　　　・・　　　 ダク  半濁点　　　・・－－・　ﾎﾟｽﾀｰﾋｮｰｺﾞ | 濁　点　゛　・・　　　　ダク  半濁点　゜　・・－－・　ﾎﾟｽﾀｰﾋｮｰｺﾞ | 参考：  <https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%A2%E3%83%BC%E3%83%AB%E3%82%B9%E7%AC%A6%E5%8F%B7>　より  総務省電波利用ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞ  <https://www.tele.soumu.go.jp/horei/reiki_honbun/72393000002.html>　より |
| Ｐ.327  モールス信号  表中　・多い | ５　・・・・・・　ゴモクメシ | ５　・・・・・　ゴモクメシ |  |
| P.328  モールス信号  左図 | 角度の表記がない | １３５° | ツーの旗をふる角度　135°ぐらい |

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| ページ | 誤り又は疑義のある表記 | 修　正　案 | 補足・参考ほか |
| P.328  モールス信号  送信の部  受信の部 | 本文符（　DE　ホヘ　）  往信符（　K　ワ　） | 本文符（　DO　ホレ　）  応信符（　K　ワ　） | 参考：  <https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%A2%E3%83%BC%E3%83%AB%E3%82%B9%E7%AC%A6%E5%8F%B7>　より  総務省電波利用ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞ  <https://www.tele.soumu.go.jp/horei/reiki_honbun/72393000002.html>　より  線を付けた略符号は、全部を1符号として送信する（３拍空けない）。  例：正　DO　－・・－－－  　　誤　DO　－・・　－－－  応信符は、アマチュア無線の場合、送信者が受信者に対して、「送受交代して、こちらは受信する。次そちらから送信どうぞ」の意味で使用。  X　マ　　　『　緊急信号　XXX　XXX　XXX　』 |

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| ページ | 誤り又は疑義のある表記 | 修　正　案 | 補足・参考ほか |
| ●  進級課目一覧 | 掲載P  P.413　⑤信仰奨励  P.414　①基本１  P.414　①基本３　　 　393  P.414　③基本１-⑥　　180-185  P.415　③基本４-②　　308  P.416　①基本３　　 　397  P.416　①基本４　　 　397  P.417　③ｽｶｳﾄ技能④-2　162-163 | 掲載P  P.413　⑤信仰奨励　 　352-353  P.414　①基本１　　 　14-17  P.414　①基本３　　 　20、386  P.414　③基本１-⑥　　180-187  P.415　③基本４-②　　308-311  P.416　①基本３  P.416　①基本４  P.417　③ｽｶｳﾄ技能④-2　162-163  　　　　　　　　　　　 338-341 | 初級　信仰奨励  ２級　ちかいとおきての意味  ページは副文参考までに  ２級　外国旗・外国スカウト章  393削除　20、386追加　ただし、不足あり  ２級　仕上げ１０㎞ハイキング  ２級　キムスゲーム２４個  １級　外国旗の併用  397削除　なお、該当ページがないため、削除のみ  １級　国旗の掲揚法  397削除　なお、該当ページがないため、削除のみ  １級　５つの星座 |

**【２】『スカウトハンドブック・ベーシック初版』について（補足・参考ほか）**

R01.12.20

主な追加変更箇所●　R02.01.31

|  |  |
| --- | --- |
| ページ | 補足・参考ほか |
| ●  P.70  安全  P.120  P.146、155  P.159  読図・標高  時間読み  P.122、123  装備  低体温症 | 登山などの活動において、通常、自分たちのための装備を背負うので精一杯である。  最近では、登山ツアー等もあるが、ガイドさんがいるからではなく、しっかり自分で装備をし、地図でルート（行程）などを事前に確認をする。決して人任せにしてはならない。  ベテラン登山者６～７人に一人その山に関しての素人（他の山での登山経験はそれなりにあり、技能もある）がパーティーに混ざっていて、当然、その一人も必要な装備を背負っていて、はじめて、万が一の発生時、一人を救えるかどうか、運が良かったら救えるかも知れない程度である。お互いの装備を利用して何とかしようとするが、お互いの装備から出せる余分な装備などたかが知れている。  年齢に応じた活動場所として適当かどうかは別にして、仮に、例えビーバースカウトであったとしても、必要最小限の装備は自分で背負わせなければならない（万が一はぐれたら？引率の大人に事故があったら？）。また、緊急時の最低限の対処の方法は知っていなければならない。低山でも事故は起こる。  メンバー同士ならともかく、メンバー外の赤の他人にその装備を割かせることは、その他人にリスクを背負わせることになる。  もちろん、緊急時は、赤の他人とも助け合わなければならないが、「助け合う」は、互いに装備と技能を出し合うことである。  班がまとまって長く歩ける速度・継続時間・余力を把握できていることが大切である。  読図で等高線や標高差について細目にある。なぜ、標高を確認するかが大事である。  有名な山域については、登山者向けの地図に、登り・下りの所要時間の目安が書いてあるものがあるが、自分たちの能力に応じて時間を加減する必要がある。  登山者で、一般的に高度を100ｍあげるのに15分かかると言われている。一般的に平地での歩行速度は時速4㎞である。  もちろん、装備の重量・急な登りなど登山道の状況・個人の能力にもより、もっと時間がかかることもある。  平面２㎞の歩行距離・標高差１００ｍであれば、一般的に３０分＋１５分＝４５分  途中の小休憩も考慮すれば、所要時間は小一時間程度となる。  一般的に標高100ｍごとに0.65℃※気温が下がり、風速１ｍごとに体感温度は1℃下がると言われている（汗や雨・霧で濡れればなお）。  ←　100ｍ15分  2㎞30分　→  ４５分かかる距離   |  |  |  | | --- | --- | --- | | ※ 標高100ｍごとの気温の低下 | 理科：0.65℃・・・理論から算出した値 | 植生地理：0.55℃・・・実測から算出した値 |   湿度が高いと、暑いときはなお暑く、寒いときはなお寒く感じさせる。  休憩時は、速やかに汗を拭き、上着を着て、適温での体温の維持（保温）を心掛ける。  霧・雨・風があれば濡れないよう・冷やさないよう雨具等を着る。  標高差1,500ｍなら、約１０度気温が低いということである。風によって体感温度的にはもっと下がる。  夏でも、山や水辺などの活動時には、熱中症だけでなく、低体温症にも気を付けよう。  山の天気は急変する。身体を冷やす-濡らす・足を濡らすということは、身体・足を重くし、  行程を狂わせることにもなる。集中力を欠き、注意散漫になり、滑落や道迷いにもつながる。  雨具や防寒具は取り出しやすいところにパッキングし、僅かな手間を惜しまず着脱する。  環境によっては、数分の僅かな時間でも低体温症になる。 |

|  |  |
| --- | --- |
| ページ | 補足・参考ほか |
| ●  P.133  登山届  登山マナー  荷造り・  歩き方  P.128、198  ザック  重量  P.79  自転車 | 日時やルートや家族等の緊急連絡先など登山計画書について、管轄の警察署等へ届け（登山届）をしよう。  山域によっては条例で義務化されているようである。また、下山届（報告）が必要な山域もあるようである。  登山計画書の部数（コピー）は、登山届用、登山者用、緊急連絡先用（団、家族など）、必要である。  登山計画書の届け（登山届）をする意義  自分たちのため・・・・・・・遭難しないためにもしっかり計画(ルート・装備など)・緊急時の対応予定(避難先や第２ルートなど)のチェックをする。  広い山域すべてを捜索することは難しい。情報があれば捜索範囲を絞ることができる。  なお、ポイントに到着したとき・止むを得ずルートや予定を変更するときは、出来るだけ緊急連絡先等へ連絡をする。  他の登山者のため・・・・・・他のパーティー（グループ）が下山しないなど、遭難の場合、遭難場所等を絞るのに情報が必要な場合がある。  登山届があれば誰に聞けば情報が得られるか分かり、警察等が行う捜索のための情報収集に役に立つ。  君たちが途中でそのパーティーを見かけているかも知れない。また、君たちの記録(報告書)が役に立つかも知れない。  ☆ちかいの一つ 『 いつも他の人々をたすけます 』 がある。『 登山届 』をすることは、ちかいを実行するために 『 そなえよつねに 』 することに他ならない。  街にはない山ならではのマナーや慣習がある。トイレの問題であったり、ホテルとは違う山小屋のルールであったり、事前によく調べて迷惑を掛けないようにする。ネット情報だけでなく、詳しい人に尋ねるなどしよう。山域による違いがあるかも知れません。よく確かめよう。  野営地や山小屋には１５時までには入り、日が暮れたらほどなく就寝だ。  荷造り(パッキング)や歩き方を甘く考えていませんか？　体力があっても、荷造り・歩き方・不慣れであれば、行程が辛くなる。  逆に言えば、同じ総重量の荷物を担いでも、荷造り・歩き方・背負って坂を歩くことに慣れていれば、乗り越えられる。  もちろん、普段から荷造りし、背負って歩くようにしなければ、慣れません。スマートな荷造りをし、外付けは無いように工夫し、両手はあける。  パッキングの極意の一つは工夫である。キスリングからアタックザックへ、主流のザックが変わった。なぜ、アタックザックは縦型か？考えてみよう。  アタックザック（以下、ここでは「ザック」と簡略して表記する。）は様々なタイプがある。体格に応じたものを選ぶ。男性向け、女性向けと、男女の体つきの違いを考慮して作られているものもある。男性でもかなり細身であれば、女性向けのものを試してみるのもよいかも知れません。  ウエストベルト（腰のベルト）をし、背負ってみて、ショルダーなどを調整してみて、背面長や肩などフィット感を確かめよう。  荷は隙間がないように、前後左右・上下のバランスを考え、重い物は腰の上から背までの間で重心が腰の上になるように詰める（キスリングとは若干異なる）のだが、詰めた荷が歩行中に前後・左右・上下で動かないように固定するための調整ストラップで固定する。そのため、調整ストラップがしっかりしているザックを選ぶ。二層式なら、下の層の固定もできるかどうか確認する。  荷が歩行中にザックのなかで動くと歩き難く余計な体力・気を使う。また、バランスを崩し転倒骨折・滑落の原因になる。  どのくらいの荷物が詰めるかは、○○リットルなどを参考にするが、テントなどの装備の長さはどうだろうか？ザックのメインのところに入るか？  メーカーによっては、サイドポケットなども含めた容量になっている。現物をみて選ぶようにしよう。  通常のキャンプなら６０ℓ～７０ℓ程度で十分だろうが、安全と衛生に配慮した移動野営・ジャンボリーへの参加、君たちが隊や個人で整えられる装備を考えると７０ℓ～８０ℓ程度は必要と思われる。隊のリーダーに確認・相談してみよう。選ぶ際には恥ずかしがらず、店員さんによく聞いてみよう。  ☆日々、トレーニングをしても筋力や体力がつきにくい者もいる。体格・体力に恵まれていないと思う者も、運動を苦手とする者も、それでも自分なりに体力作りはしよう。また、不器用であったりする者もいるだろうが、スキルを磨く努力をしよう。これらを前提に工夫がある。  昔に比べて、ザック・テント・道具等、軽量化・コンパクト化、使い勝手が改良されている。  一般的に自分の体重程度なら背負うだけならできると言われている。背負って長く歩くとなると話は別で、目安として、一般的に登山では装備の重量は体重の１／３程度と言われている。体重50ｋｇなら約16kgである。身体能力に優れていなくても、運動部に入るなりしてトレーニングし、足腰を鍛え、  持久力をつけ、普段のキャンプにザックを背負って行き来しているなら、２／５（体重50ｋｇなら20kg）程度までなら大丈夫だろうが、忍耐力は必要だ。  もちろん、山小屋へ荷を運ぶ歩荷（ぼっか）、大学などの山岳部や登山家などは、もっと背負っているが、そのための特別なトレーニングは欠かせない。  さて、そうは言っても、ザックはそれなりの値段がする。入隊・上進間もないころなら、最初はお古などを実際に使ってみて、先輩たちのザックを背負わせてもらってみて、どんな感じか経験してから、じっくり選ぶようにしよう。その間に、君も成長する。  自転車での移動は、徒歩での移動より、安全のため、より自制心が求められる。重い荷があると、普段乗っている自転車であっても、まったく別の乗り物のような感覚になる。事前の点検、普段より長い車間距離、道の横断、右左折、後続への配慮、ブレーキの効き具合の違いなど注意が必要である。  荷物を背負って、転倒した場合、徒歩でもかなりの衝撃で、両手をつくのも難しい。自転車での移動の場合、スピードもあり、なお強い衝撃である。  荷物を積む場合は、前輪が登りで浮いたりしないか、バランスやハンドル操作の具合はどうかなど、注意する。普段より慎重に運転する。  異常を感じたら早めに降り、点検・修繕をする。ツーリングの際、下り坂が長いと、ブレーキのゴムが焼け効かなくなる。安全な場所で早めに降り、押して歩くようにしよう。徒歩と自転車と比べた場合、自転車は決して手軽とは言えない。より高度な注意力・判断力と技能が求められる。  注：１級旅行など移動野営や２級ハイキングは、登山を前提としているのではない。  君たちに与えられる課題の一番は、無事に冒険から帰って来ることである。家族や仲間へ果たさなければならない最も大事な務めである。 |

|  |  |
| --- | --- |
| ページ | 補足・参考ほか |
| ●  P.153  地形図の  折り方 | 参照：旧のスカウトハンドブックP.１０２「地図の折り方（一例）」が分かり易い  ①　図郭に合わせて折り　　　②　図郭の角で、赤実線と黄破線、赤破線と黄実線　③　黄実線と赤破線で折る　赤実線と黄破線で折る。  折り目を付ける。　　　　　　をそれぞれ重ねるように緑のところで折る。  裏返した結果  これを裏返す  ①　赤実線で折る（折った結果、裏表でそれぞれ地図半分が見える状態）  ②　黄破線でそれぞれ折る（地図が裏表とも隠れ、蛇腹折り状態）  ③　緑実線で縦に半分折る  　　　　　　少し長めの幅　　　少し短めの幅  ※折り畳んだ状態で、赤線の部分が擦れて破れやすいため、赤線部分が少し隠れるように折る。 |

|  |  |
| --- | --- |
| ページ | 補足・参考ほか |
| P.147  記号  特別標高点  標高点 | 参考：  国土地理院ホームページ  平成25年2万5千分1地形図図式(表示基準）より  『・124.7　特別標高点』　特別標高点とは、現地測量を行った点  『・125　　標高点　　』　標高点とは写真測量を行った点  参考：  使われている地図記号とその表示例等を確認できる。  国土地理院ホームページ内　国地達第１５号　PDF  <https://www.gsi.go.jp/common/000218186.pdf>　より |
| P.128  P.194  ～198  ザック  パッキング | ザックとパッキングの研究をしてみよう。  参考：  　山登ABC山用具の基本　山と溪谷社　　より  　山登ABCテント泊登山の基本　山と溪谷社　　より  元山岳部部長の登山講座ホームページ  <https://yukinoshingun.com/category/tozan-soubi/zach/>　より  検索キーワード  『 アタックザック キスリング パッキング 』  『 登山 パッキング 』  安全面から、できるだけ外付けしないように工夫しよう。  「ウルトラライト・トレッキング（ハイキング）」という歩きのスタイルが流行しているが、高価な軽量なギア（道具）を買い揃えることではないし、また、単に荷物を減らすことでもない。知識や経験、それに技能がどうなのか？ 能力を高め、シンプルな道具で如何に安全を確保し、リスクの回避・対処をするかなどが問われるスタイルである。格好だけの安易な真似はすべきではない。様々な歩きのスタイルがあるが、それぞれに一長一短ある。 |
| P.292  ヌルデ | 特徴不明瞭  ヌルデの特徴　奇数羽状複葉・葉軸に翼  参考：  岡山理科大学 生物地球学部 生物地球学科ホームページ  <http://had0.big.ous.ac.jp/plantsdic/angiospermae/dicotyledoneae/choripetalae/anacardiaceae/rhus.htm>　より  <https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%8C%E3%83%AB%E3%83%87>　より |
| P.334  ～335  信号塔の組み立て | 安全構造・安全作業・技能など確認  より安定した安全な大型構築物にするために、周囲の建物の構造を観察し、いろいろと模型を試作してみよう。  参考：  『スカウトハンドブック・ベーシック』P.70～71　より |

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| ページ | | 補足・参考ほか | |
| P.219  ロープ結び  ねじ結び　図 | | 撚りのあるロープなら、撚りに沿うように結ぶ。※チェーン・ストッパーは異なる（詳しくは「図解実用ロープワーク増補４訂版 前島一義 著」を参照）。  結び目の密着度合いで摩擦力(滑り難さ)に差がでる。  参考：  撚りに沿う  『結びのはなし〈改訂版〉 平沼昭南 溪水社』P.75～78より  『スカウトライブラリーロープむすび　関忠志　』P.18より  ねじ結び  ひと結び  ひと結び（ロープの端(先)を、柱の右から出した場合）　ねじ結び  個々の利き手や癖もあるので、一概には言えないが、  ねじ結び（ねじり結び）、ふた結び、ﾄｰﾄﾗｲﾝﾋｯﾁ（張り綱結び）の最初の端の出し方や、ロープの元への掛け方を、ひと結びの段階で、揃えるようにした方が、覚えやすいのではないだろうか。  また、撚りのあるロープを使うことを前提に考えた方が良いのではないだろうか。  ひと結び→ふた結び（ロープの元への巻結び）  ひと結び→張り綱結び（ロープの元への二重巻結び・又はその変形）  ひと結び→ねじ結び→丸太結び←巻結び  逆バージョン  ひと結び  ねじ結び    ひと結び（ロープの端(先)を、柱の左から出した場合）　ねじ結び | |
| P.221  二重てぐす結び | | スカウトハンドブック・ベーシック掲載の二重てぐす結びは、登山関係の書籍でよく見掛ける。  スカウトライブラリーのロープむすびに掲載の二重てぐす結びとは異なるが、使用場面に応じて使い分けるとよい。  参考：  『スカウトライブラリーロープむすび　関忠志　』P.15より  <https://ja.wikipedia.org/wiki/%E4%BA%8C%E9%87%8D%E3%83%86%E3%82%B0%E3%82%B9%E7%B5%90%E3%81%B3>　より  ヤマレコ ホームページ  <https://www.yamareco.com/modules/yamanote/detail.php?nid=426>　より  釣りのときのてぐす結びは、様々ある。興味があれば調べてみよう。  検索キーワード  『釣り　てぐす結び』 |

|  |  |
| --- | --- |
| ページ | 補足・参考ほか |
| ●  ロープ結び | ロープ結びに関する書籍は、沢山あります。著者の異なる書籍を読んでみるのもよいでしょう。見比べて、結んでみて、具合を確認してみよう。  そのなかで、新しい発見やなるほどと思わせられるものがある。  その一つに、よろい結びの最後に一捻りする(図解 実用ロープワーク 前島一義著 より)のがある。これまで様々な職業やアウトドアの場面で使われてきて、そのなかで試行錯誤、改良工夫されており、異なっている部分がある。使用場面やロープの素材によっても、同じようで異なっている部分があったり、結びとしては正しくても用途によってはよくない結びもあったりする。命綱という言葉があるが、専門の職業や、より専門高度な野外活動においては、それぞれ安全面から培ってきたノウハウがある。携わるようになったら、それぞれのところで、謙虚に学ぼう。 |
| ●  P.237  ナイフの  砥ぎ方 | 先ずは、ナイフを砥ぐための、砥石について、種類や使い方を調べよう。刃の砥ぎ方、ハンドブックに紹介されているのとは逆の砥ぎ方のものもある。  デリケートに刃をつけると、使い方によっては刃こぼれする。ナイフの砥ぎ方も、いろいろ紹介されている。自分のナイフや使っている刃物にあった方法・コツを探そう。  検索キーワード  『　砥石　ナイフ　包丁　』　『　まくれ　かえり　刃　砥ぐ　』 |
| ●  P.249  防水マッチ | ロウを融かす際、ビンなどを使用する場合は、水を張った鍋に、フタをあけたロウを入れたビンを浸し、水から湯煎する。  換気には注意し、風通しのよいところで作業する（湯煎中も換気に注意）。  ビンなどは直接火にかけない（危険）。  作業場所には新聞紙などを敷く（散ったロウが冷えて固まると除き難い）。  マッチにロウを浸けるタイミングは、融けたロウが、透明から少し温度が下がり濁り出した頃が、適当である。  さっと浸けてさっと引き上げる。ロウがマッチの頭薬に浸み込むと失敗だ。失敗は成功の基、いろいろ試してみよう。  マッチというのがある。新聞で包むように巻き糊でとめ、数回に分けてロウに浸し、厚めにロウのコーティングをしたものである。  上手にできれば、細めのロウソクのようになり、火力が強化されたものになる。 |
| ●  P.48、366 | 時間帯は、訪問先への配慮、セーフ・ムロム・ハーム、遠方のスカウトの帰宅時間、安全などに配慮する。  また、保護者の理解が得られる時間帯とする。 |

|  |  |
| --- | --- |
| ページ | 補足・参考ほか |
| ●  P.325  手旗  文字を形象  ア オ  語句の発信  ノリ  スネ  エイチ  問符 不明箇所  濁点と長音  ボーイ  半濁点と長音  ポール  数字の発信  数字形象  １０６  帯分数  読点形象と  帰除線形象    小数点  読点形象  １．５  略語の発信  略語形象  ヤノハ | 以下の表は、このページでの記載の略記号とし、また、第１動作から第２動作・第２動作から第３動作は「→」で、あらわすこととする。  例：ア ９→３　 オ １→２→３  ※日本船舶信号法では読点の略記号は「。」である（以前の略記号は「，」カンマであった）。  ア　　　　　　　　　　　オ  姿　９→３　姿　　　　　姿　１→２→３　姿　※一文字の形象は、原姿と原姿の間で形象する。  　 文字は、原画の組み合わせを一連の動作で、形象（表現）する。  ノ　　　リ　　　　　　　　　　　　　　　　なお、交信区別形象や記号形象も、文字同様に原姿と原姿の間で形象する。  姿　３　姿　１２　姿    ス　　　　　　　ネ  姿　１→２→５　姿　９→２→１　姿  　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　「エイチ」の「イ」の箇所が不明であったので、不明箇所を問符で表す。  エ　　　　　　　 イ　　　　　チ　　　　　　　　　　エ　　　　　　 不明箇所　 チ  姿　１→逆２→１　姿　３→２　姿　７→逆２　姿　 姿　１→逆２→１　姿　 ？ 　姿　７→逆２　姿  問符  ホ　　　　　　　　゛　　　　ー　　　イ  姿　１→２→１０　姿　１３　姿　２　姿　３→２　姿　※濁点、半濁点、長音は、一文字とする。    　　ホ　　　　　　　　゜　　　　ー　　　ル  姿　１→２→１０　姿　１４　姿　２　姿　３→７　姿  数字形象は、ひとまとまりの数字（数）の前後に付けて使う。  １　　　０　　　６　　　　　　　※０～９までの各数字は、それぞれ一文字とする。(一文字の形象は、原姿と原姿の間で形象する。)  姿　△　姿　１　姿　０　姿　６　姿　△　姿　　ひとまとまりの数字（数）は、数字形象△と数字形象△の間に形象する。  　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　数字として使用する原画は、０原画と第１原画～第９原画までである。  帯分数  ３と５分の１  　　　　　　３　　　と　　　１　　　／　　　５  姿　△　姿　３　姿　。　姿　１　姿　／　姿　５　姿　△　姿 ※分子の次に、帰除線を挟んで分母となる。  　　　　　　　　　　帯　　 分子 帰除線　 分母  小数点  　　　１　　 てん　　 ５  姿　△　姿　１　姿　。　姿　５　姿　△　姿  　　　　　　　　　小数点  ※以上、ここでの数字の送り方は、第３法 数字原画法である。  略語形象(以下、略 と表記する。）は、略語の前後に付けて使う。  例：例えば、「ヤマネハンノハンチヨウ（ヤマネ班の班長）」の略語を「ヤノハ」と、あらかじめ送信側と受信側で決めておく。  　　　　　　ヤ　　　　　ノ　　　 ハ  姿　略　姿　８→４　姿　３　姿　１０　姿　略　姿　※略語は、それぞれの隊や班で考えてみよう。  ※日本船舶信号法では、現在、問符形象や略語形象は使わない。 |

|  |  |
| --- | --- |
| ページ | 補足・参考ほか |
| P.328  モールス |  |

|  |  |
| --- | --- |
| ページ | 補足・参考ほか |
| P.326  ﾓｰﾙｽ |  |

|  |  |
| --- | --- |
| ページ | 補足・参考ほか |
| P.326  ﾓｰﾙｽ | 参考：旗と船舶信号（出版 成山堂）六訂四版　三谷末治　古藤泰美　共著　より  ※このモールスの交信の方法は、手旗とほぼ同様であるので、単旗やライトでの交信の場合、こちらの方が取り組みやすいかも知れません。 |

|  |  |
| --- | --- |
| ページ | 補足・参考ほか |
| ●  P.32  ～  P.218  ～  P.330  ～  結索 |  |



|  |  |
| --- | --- |
| ページ | 補足・参考ほか |
| ●  P.221  よろい  結び  別法  その他 | |  |  |  |  |  |  |  |  | | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | | よろい結び淡路仙人Mirage12.Ver.1M  よろい結びは、輪が縮まり、締ってしまうことがある。体を輪に入れてはいけない。 | ひねり１回 |  |  |  | 反ひねり |  | 裏から見た図 | |  |  |  |  |  |  |  | | バタフライノット | ひねり１回目 | ひねり２回目 |  |  |  |  | 裏から見た図 | |  |  |  |  |  |  |  | | 「スカウトライブラリー ロープむすび」は、　結びを「元を左・端を右」を基本に概ね掲載している（P.7 及び P.39　参照）。  結び方には、意味があるので「スカウトライブラリー ロープむすび」での結び方も意味があると思われる。  よろい結びの結び方について、別法の紹介だが、ロープを強く張る方法は、「スカウトライブラリー ロープむすび」P.39に詳細があるので、  上記のよろい結び、バタフライノットの写真は、「スカウトライブラリー ロープむすび」P.34、37と同じになるよう結んでいる。  ただし、よろい結びについて、『図解 実用ロープワーク 前島一義著』を参考に「反ひねり」を加えてある。  上記、よろい結びの場合、左の元側では、ふた結びで立木に定着している。右の端側に、よろい結びを用いてロープを強く張ろうとしている。 | | | | | | | |   『引きとけ結び(最左上の絵を除く)、てこ結び、垣根結び(元を左・端を右にする場合は、ベーシックとは対称に結ぶ必要あり)、索端止め、ウォールノット・クラウンノット・  スプライス、えび結び』は、ベーシックの方が良いように思われる。  ※イングリシュマンズループは、バタフライノットのひねり１回目を逆にひねり、あとは同様に結んだものになる（形がくずれた場合どうなるか、危険を確認しておこう）。  ※もやい結びでも、輪にかかる力の方向などにより、形がくずれ、引きとけになり、クライミング等で事故が起きている。 |

|  |  |
| --- | --- |
| ページ | 補足・参考ほか |
| ●  P.312  ～321  簡易  測量  到達できない２点間  簡易測量器具作成例 |  |

**【３】その他参考情報**

R01.12.20

主な追加変更箇所●　R02.01.31

〇世界のスカウト章

　日本ボーイスカウト奈良県連盟わかくさ地区協議会　検索キーワード　『　世界のスカウトリンク集　』<http://bsnarawakakusa.nomaki.jp/worldscout.html>

（進歩の手引き(初版)とｽｶｳﾄﾊﾝﾄﾞﾌﾞｯｸ・ベーシック（初版）とで、外国のスカウト章が異なるものがある。変更があり、ベーシックのものが新しいものである。）

〇外国旗　国際儀礼プロトコール

　外務省ホームページ（国際儀礼プロトコール）<https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/-plaza/protocol/kokki.html>

〇外国スカウトのおきて

[https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%9C%E3%83%BC%E3%82%A4%E3%82%B9%E3%82%AB%E3%82%A6%E3%83%88%E3%82%A2%E3%83%A1%E3%83%AA%E3%82%AB%E9%80%A3%E7%9B%9F#](https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%9C%E3%83%BC%E3%82%A4%E3%82%B9%E3%82%AB%E3%82%A6%E3%83%88%E3%82%A2%E3%83%A1%E3%83%AA%E3%82%AB%E9%80%A3%E7%9B%9F)

〇間接圧迫止血法（止血点圧迫止血法）　検索キーワード　『　日本赤十字社　多量の出血　止血法　』

〇植物

　木のぬくもり・森のぬくもり<http://www.jugemusha.com/jumokuF.htm>

　松江の花図鑑<https://matsue-hana.com/>

〇野鳥

　公益財団法人 日本野鳥の会 <https://www.birdfan.net/>

〇淡水魚

　日本淡水魚類愛護会<https://tansuigyo.net/>

〇昆虫

　いきものラビリンス<https://www.odd.jp/top.htm>

　昆虫エクスプローラ<https://www.insects.jp/konbun.htm>

〇動物

　プライベート・ズー・ガーデン<https://pz-garden.stardust31.com/index.html>

〇特定外来生物

　国立環境研究所ホームページ(侵入生物データベース) <https://www.nies.go.jp/biodiversity/invasive/resources/listja_toc.html>

　環境省ホームページ（特定外来生物等一覧）<https://www.env.go.jp/nature/intro/2outline/list.html>

　東京都環境局が運営する「気をつけて！危険な外来生物 | 東京都環境局」サイト<https://gairaisyu.tokyo/species/>

〇食中毒

　厚生労働省ホームページ（食中毒）<https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryou/shokuhin/syokuchu/index.html>

　厚生労働省ホームペーム（自然毒のリスクプロファイル）

<https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryou/shokuhin/syokuchu/poison/index.html#higher>

●以下、追加

〇「政府広報オンライン」サイト　水の事故、山の事故を防いで 海、川、山 を安全に楽しむために

<https://www.gov-online.go.jp/useful/article/201407/3.html>

検索キーワード　『　水辺 安全 危険　河川 海　』

〇「海上保安庁ホームページ」　海上における事件・事故の**緊急通報用**電話番号「**１１８**番」

<https://www.kaiho.mlit.go.jp/doc/tel118.html>

<https://ja.wikipedia.org/wiki/118%E7%95%AA>　より

海上保安庁・警察・消防は連携をとっている。海の事件事故の際、110番(警察)や119番(消防)に通報しても、海上保安庁に取り次がれるようである。

〇空腹時や食後すぐの水泳はなぜダメなのか・・・体の機能面からも考えてみよう

検索キーワード　『　食後 水泳 交感神経 副交感神経 消化吸収 血流　』

〇登山

検索キーワード　『　愛媛県山岳連盟　』　『　登山計画書　下山後　』　『　長野県　島崎三歩　山岳通信　』　『　登山　装備　』　『　登山道　歩き方　』

『　マナー　登山 山小屋 登り 下り 就寝　』　『　山岳　登山　保険　遭難　救助　費用　』　『　登山　トイレ　費用　』

　『　山のマナーノート　公益社団法人 日本山岳会　』　『　安全登山ハンドブック　公益社団法人 日本山岳ガイド協会　』

　書籍：地図読み はじめの一歩　平塚晶人 著 山登りＡＢＣシリーズ 山と溪谷社・Ｑ＆Ａ　登山の基本　ワンダーフォーゲル編集部 山登りＡＢＣシリーズ 山と溪谷社

図南の翼　小野不由美 著　新潮文庫（小説　登山の本ではありません。）

〇「政府広報オンライン」サイト　知ってる？　守ってる？　自転車利用の交通ルールとマナー

<https://www.gov-online.go.jp/featured/201105/>

　検索キーワード　『　自転車 ツーリング 安全 走行 荷造り　』

〇公益財団法人ボーイスカウト日本連盟

<https://www.scout.or.jp/member/wp/wp-content/uploads/2019/12/anzen_2019_web.pdf>　2019年発行「野外活動のための安心・安全講座」 SCOUTING取りまとめ版　PDF

<https://www.scout.or.jp/member/20190712_summer/>　2019年度夏季の諸活動に向けて

〇選択課目（技能章）（2019.04.01 公示、05.17 修正）　<https://www.scout.or.jp/member/wp/wp-content/uploads/2016/11/20190401_ginousyo_saimoku.pdf.pdf>

　技能章の考査方法について、『最低基準：字句を忠実に読み、しかもそれを最も優しく解釈した線』で行われるものである。細目の内容と、示された考査方法との不一致等が散見されるので、日本連盟において修正がなされることが予期される。技能章考査員や各隊で、適宜確認を要する。また、細目の趣旨に合致するよう配慮を要する。

〇ランタン

　検索キーワード　『　ランタン　手入れ　ミスターコールマン　』

〇魚の三枚おろし

　検索キーワード　『　魚 捌き方　』

〇カマ、ナタ、ノコギリ

検索キーワード　　『　鎌　カマ 使い方 手入れ　』　『　鋸　ノコギリ 使い方 手入れ　』　『　鉈　ナタ 使い方 手入れ　』

〇国旗

　検索キーワード　『　国旗　掲揚・降納　マナー　』　『　国際儀礼プロトコール　』

〇手旗・モールスの交信方法などが不明な場合は、松山地区進歩委員会まで

〇星座観察

検索キーワード　　『　星に重ねる星座カード　』

〇おはなし

　デンマークのアンデルセンの童話『裸の王様』等、古代ギリシアのイソップ寓話『兎と亀』等、ドイツのグリム童話『赤ずきん』等、日本の昔話『足柄山の金太郎』等の物語や、神話など、様々な国や地域にいろんなお話がある。営火などで寸劇にするのもよし、内容によってはスカウツオウンの際の題材にするもよし。

〇スカウトソング

作詞・作曲 中村知（なかむらさとる）愛媛県松山市生まれ[1893年](https://ja.wikipedia.org/wiki/1893%E5%B9%B4)2月21日 - [1972年](https://ja.wikipedia.org/wiki/1972%E5%B9%B4)3月1日　愛称ちーやん　筆名(ﾍﾟﾝﾈｰﾑ)東野通義（とうのつうぎ）

　　 　　　主な歌：『永遠のスカウト』、『十種野営料理の歌』など　歌集などで探してみよう🎶　Ｈ26.8.20 18刷発行 P.23、82ほか

参考：<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E4%B8%AD%E6%9D%91%E7%9F%A5>

作詞・作曲 マイク眞木『キャンプだ ホイ』ＢＳ歌集Ｈ26.8.20 18刷発行 P.65

参考：<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%9E%E3%82%A4%E3%82%AF%E7%9C%9E%E6%9C%A8> フォークソング歌手『バラが咲いた 作詞／作曲：浜口庫之助　編曲：小杉仁三』等

作詞 奈良橋陽子、作曲 タケカワ ユキヒデ（本名 武川行秀）『ビューティフル・ネーム（EVERY CHILD HAS A BEAUTIFUL NAME）』BS歌集Ｈ26.8.20 18刷発行 P.166

参考：日本のロックバンド　ゴダイゴ（GODIEGO）　<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%B4%E3%83%80%E3%82%A4%E3%82%B4>

西遊記（1978年ﾃﾚﾋﾞﾄﾞﾗﾏ）の主題歌『Monkey Magic』・『ガンダーラ』や､銀河鉄道９９９の主題歌『銀河鉄道９９９（THE GALAXY EXPRESS 999）』等

〇進級課目への取組み、技能章およびその細目への取組み

規程上の根拠はないが、現在は運用上、１級スカウト章の課目（技能章細目と共通の課目を含む）までは、一部を除き、２級スカウトでなくとも履修できるとされているが、できるだけ、進歩の状況に応じ、また、繰り返し行うように配慮されたい。

　少年隊年長隊時代や、特修章時代の進歩記録帳などと見比べて、違いを見てみるのも活動のヒントになるかも・・・。一語一句に時代に応じた配慮やねらい等があった。

例えば、課目・細目の長期野営の必要泊数は、現在が最長の「連続５泊（５泊６日）以上」となり、「連続３泊（３泊４日）以上の固定野営２回含め、通算（合わせて）１０泊以上」となった。昔懐かしい少年隊年長隊時代は携行品リスト作成の想定で「4泊（４泊５日）の夏季固定隊野営参加に必要な携行品リスト作成」・実際の野営の必要泊数は「連続３泊（３泊４日）以上の固定野営２回含め、通算（合わせて）１２泊以上」であった。懐かしい特修章時代も「連続３泊（３泊４日）以上の固定野営２回含め、通算（合わせて）１２泊以上」であった。

地図作業（座標や磁北線の記入）は、現行、要件になっていない。班での取り組みやグリンバー(班長)訓練で行ったのでよい。月の輪による初級課目の完修によって、上進即初級となっている。地図作業は、上進したばかりの小学校６年生ぐらいだとかなり根気が要る作業で、スカウトによってはハードルが高い。一長一短あるが、

座標は、基本５００ｍ方眼であるが、１㎞方眼でもよいのである（ただし、他隊との合同で活動する場合は注意を要し、また、座標での指示に工夫が要る）。

　現行の進級制度を進める上で、課目・細目に取組むために、生活環境・自然環境の変化に伴い、昔であれば当たり前に日常生活で充足されていたこと、前提（スカウトとしての活動以前の土台）となる知識や技能・野遊びの体験など（細目の文言に表れていないそれら）の不足に対するフォローが必要なことや、新しい物事に対するそれら、近隣の隊や地区での相互協力の必要なこともあるかと思われる。大人の側にとっても、同様であるかと思われる。新たにスカウトスキルとして考えるとしても、トータルで過重な負担とならないよう配慮を要すると思われる。個々人同士だけでなく、組織と個人の間でのセーフ・フロム・ハームなど、様々あるかと思われる。

　スキルについては、興味を持ったらいつでも手軽に調べられる資料としての保存と、現に活動するための伝承とは、分けて考える必要があるかと思われる。

　技能章の『章の取得』は２級スカウトになってからであるが、技能章の『細目の履修』については規程上特段の制限はない。

　例えば、計測章の細目（１）は、初級スカウト章（月の輪やスカウトバッジの者が取り組む）課目３．スカウト技能（１）　と共通

計測章の細目（３）や（４）は、２級スカウト章（初級スカウトが取り組む）課目３．スカウト技能（５）計測の①や②　と共通

このように、技能章の細目の取組みは２級スカウトになる前から行うようになっている。また、計測章の細目（２）『ロープに１ｍ刻みの目盛りを施し、計測に使える。』は共通ではないが、内容をみても分かるように、入隊間もないスカウトバッジの者も取り組める細目である（これを１級課目に挑戦中の２級スカウトでなければならない理由はない）。

規程上の根拠はないが、現在は運用上、１級スカウト章の課目(技能章細目と共通の課目を含む)までは、一部を除き、２級スカウトでなくとも履修できるとされている。

仮に技能章の細目の履修も２級スカウトになってからと解釈するなら、『共通』としていることに矛盾が生じるので、論理的にそのようなことはない。

一方、技能章の『章の取得』は２級スカウトになってからとは、ある程度活動に慣れ、回を重ね熟練もし、相応の心身･能力の成長･進歩を待つということと思われる。

なお、技能章の『細目の履修』については規程上特段の制限はないとは言え、その年齢や級に相応しいかどうか、そのスカウトの心身･能力の成長・進歩の状況に合っているかどうかは、よくよく考えなければいけない。班長の手旗信号指導法(4)P.19～20 (岡山県連盟HP <https://scout-ok.jp/archiv/index.htmlPDF>)に中村知氏が見解を示されている。

　最低基準は、字句を忠実に読み、しかもそれを最も優しく解釈した線である。日本連盟においては、これを意識して進級課目や技能章細目の字句を設定されている。

　実際の考査の場面では、この最低基準を守りつつ、それまでにどう努力したか、其々のスカウトの年齢、知能、体力、特質、発育の程度及び生活環境によって行う。

　もちろん、より高みに、大いにチャレンジする気概を持ってもらいたい。基準をクリアして自信を持ち、さらに挑戦して自信を深め、誇りを持つに至ってもらいたい。

〇情報について

　インターネットや書籍など、様々な情報を様々なところから得ることができる。自分の五感で観察し、試してみて、得ることもできる。

　古い書籍を参考にするのもよい。ただし、当時は正しくても、現在は問題があることもあるので注意しよう。

ボーイスカウトであるからこそ、最新の知見をしっかり確認し、知識・スキルの更新に努めよう（連盟歌の歌詞２番より）。

　例え世界一の権威からの情報であっても、必ずしも正しいとは限らない。本当？なぜ？どちらがよい？情報の新旧？直ぐには答えのでないこともある。

情報に接し、真かどうか、見極めに時間が必要になることもある。探求心・好奇心を持ち続けて欲しい。

〇知る・理解・得心

　同じ事柄でも、繰り返し行っているうちに、より深い理解・上手へとつながる。小説でも、漫画でも、初めて読むものは時間が掛かる。初めてのことは上手く出来ない。なぜなら、頭や体が理解していないからである。学校の勉強とは違いますから、楽しんで夢中にもなり、おおいに失敗もしよう。でも、くれぐれも怪我はしないように。

　検索キーワード　『　塵を掃い　垢を除かん　パンタカ　』

**<　ページ概要　>**

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| **【１】『スカウトハンドブック・ベーシック初版』について（修正案、補足等）** | | | | |
| 第１章　冒険への旅立ち | | | | |
| 修正案等ページ | ベーシック初版ページ | 概　　　　　要 | 修正案 | 補足等 |
| P. 1 | P. 26、31 | 国旗の掲揚・降納、弥栄 |  | ○ |
| P. 1 | P. 42 | 上進時期 |  | ○ |
| 第３章　冒険をはじめるために　１．安全（教育と対策）　３．救急法 | | | | |
| 修正案等ページ | ベーシック初版ページ | 概　　　　　要 | 修正案 | 補足等 |
| P. 1 | P. 71 | 危険を察知して安全を先取りする　場所 | ○ |  |
| P. 1 | P. 76 | 水辺の安全　水泳の注意　水泳単位・バディコール |  | ○ |
| P. 1 | P. 76 | 水辺の安全　水泳の注意　キャンプ時 |  | ○ |
| P. 2 | P. 77 | 人が溺れているのを発見したら | ○ |  |
| P. 2 | P. 77 | きみの水泳能力はどうだろうか？ |  | ○ |
| P. 2 | P. 95 | 人工呼吸 | ○ |  |
| P. 2 | P. 99 | 凍傷 | ○ |  |
| P. 2 | P.110 | 前腕の骨折 |  | ○ |
| P. 2 | P.113 | 止血帯装着の手順 |  | ○ |
| 第４章　ハイキング　２．地図とコンパス（進路を発見する）　３．野帳（フィールドノート） | | | | |
| 修正案等ページ | ベーシック初版ページ | 概　　　　　要 | 修正案 | 補足等 |
| P. 3 | P.145 | 磁針方位　真北と磁北のずれ |  | ○ |
| P. 3 | P.148 | 三角点　標石 | ○ |  |
| P. 4 | P.148 | 三角点　地形図 | ○ |  |
| P. 4 | P.149 | 標高点　地形図（P.147記号） | ○ |  |
| P. 4 | P.152 | 磁北線 |  | ○ |
| P. 5 | P.160 | 太陽を使った方位発見　春分・秋分の南中高度 | ○ |  |
| P. 5 | P.163 | スカウトソング「星方位（ほしほうい）」 | ○ |  |
| P. 5 | P.164 | 月の形で方位（東西）を知る | ○ |  |
| P. 5 | P.165 | 星の動きで方位を知る | ○ |  |
| P. 6 | P.154 | 現在地の確認<一点確認法> | ○ |  |
| P. 6 | P.169 | バックベアリング(来た道を戻る方法) | ○ |  |
| P. 7 | P.170 | 略地図 | ○ |  |

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 第５章　キャンピング　２．設営 ロープ結び | | | | |
| 修正案等ページ | ベーシック初版ページ | 概　　　　　要 | 修正案 | 補足等 |
| P. 8 | P.220 | 引きとけ結び |  | ○ |
| P. 8 | P.221 | てぐす結び | ○ |  |
| P. 8 | P.223 | よろい結び | ○ |  |
| P. 9 | P.227 | 角しばり | ○ |  |
| P. 9 | P.228 | はさみしばり | ○ |  |
| P. 9 | P.229 | ８の字しばり | ○ |  |
| 第６章　スカウト技能　１．自然観察　２．計測　３．通信 | | | | |
| 修正案等ページ | ベーシック初版ページ | 概　　　　　要 | 修正案 | 補足等 |
| P.10 | P.300 | 針葉樹 | ○ |  |
| P.10 | P.300 | ヒノキ　属　アスナロ | ○ |  |
| P.11 | P.301 | 広葉樹 | ○ |  |
| P.11 | P.301 | シ　イ　属　写真 | ○ |  |
| P.12 | P.316 | スカウトペース | ○ |  |
| P.12 | P.320 | ２．縮図法　簡易計測器をつかう　②複仰角法　図 | ○ |  |
| P.12 | P.320 | ３．三角関数法　表 | ○ |  |
| P.13 | P.322 | 原画形象表　第二原画 | ○ |  |
| P.13 | P.323 | 原画形象表　第五原画 | ○ |  |
| P.13 | P.323 | 原画形象表　第十四原画 | ○ |  |
| P.14 | P.323 | 原画形象表　第七原画 | ○ |  |
| P.14 | P.323 | 原画形象表　第十二原画 | ○ |  |
| P.14 | P.323 | 原画形象表　第十三原画 | ○ |  |
| P.14 | P.323 | 原画形象表　第十四原画 | ○ |  |
| P.14 | P.324 | 文字形象表　ヰ | ○ |  |
| P.14 | P.324 | 文字形象表　長音 | ○ |  |
| P.14 | P.325 | 交信の一般基本　符 | ○ |  |
| P.15 | P.325 | 交信の一般基本　応信 | ○ |  |
| P.15 | P.325 | 交信の一般基本　送信者（誤り） | ○ |  |
| P.15 | P.325 | 交信の一般基本　受信者（一部不明） | ○ |  |
| P.15 | P.325 | 交信の一般基本　送信者（全部取消し） | ○ |  |
| P.15 | P.325 | 手旗信号が使えるようになるには | ○ |  |
| P.16 | P.325 | 筆記の際の記号（手旗、国内船舶モールス） |  | ○ |
| P.16 | P.326 | モールス信号　５０音の覚え方　ダク　ポスターヒョウゴ | ○ |  |
| P.16 | P.327 | モールス信号　５０音の覚え方　５　ゴモクメシ | ○ |  |
| P.16 | P.328 | 旗振り図 | ○ |  |
| P.17 | P.328 | 送信の部　受信の部　本文符　応信符　略符号 | ○ |  |

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 第10章　進級課目　１．進級章・技能章の申請方法　進級課目一覧 | | | | |
| 修正案等ページ | ベーシック初版ページ | 概　　　　　要 | 修正案 | 補足等 |
| P.18 | P.413～416 | 進級課目一覧　掲載P | ○ |  |

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| **【２】『スカウトハンドブック・ベーシック初版』について（補足・参考ほか）** | | |
| 補足等ページ | ベーシック初版ページ | 概　　　　　要 |
| P.19 | P. 70、120･146･155･159、122･123 | 安全　読図・標高　時間読み　装備　低体温症 |
| P.20 | P.133、128･198､79 | 登山届　登山マナー　荷造り・歩き方　ザック　重量　自転車 |
| P.21 | P.153 | 地形図の折り方 |
| P.22 | P.147、128・194～198、292、334～335 | 特別標高点・標高点　ザック・パッキング　ヌルデ　信号塔の組み立て |
| P.23 | P.219、221 | ねじ結び　二重てぐす結び |
| P.24 | P.237、249、48・366 | ロープ結び　ナイフの砥ぎ方　防水マッチ　セーフ・フロム・ハーム |
| P.25 | P.325 | 手旗　形象 |
| P.26 | P.328 | モールス交信方法の例 |
| P.27 | P.326 | スカウトハンドブック・ベーシック　モールス早見表 |
| P.28 | P.326 | 国内船舶の和文モールス（発光信号）早見表 |
| P.29 | P.32～33、218～234、330～337 | ロープ相関図 |
| P.30 | P.221 | よろい結び　注意喚起 |
| P.31 | P.312～321 | 到達できない２点間の計測　簡易計測器作成例 |

|  |  |
| --- | --- |
| **【３】その他参考情報** | |
| その他参考ページ | 概　　　　　要 |
| P.32～34 | 参考情報のリンク、検索キーワード　その他 |

|  |  |
| --- | --- |
| **<　ページ概要　>** | |
| ページ概要ページ | 概　　　　　要 |
| P.35～37 | ページ概要 |